

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390103291		
法人名	株式会社みのり		
事業所名	グループホーム永の郷		
所在地	熊本市南区城南町永1209		
自己評価作成日	令和5年12月19日	評価結果市町村受理日	令和6年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和6年1月25日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

理念に基づいてご利用者の個性を色々な角度から考察し、その人らしい生活が出来るような取り組みが出来ていると思う。また、ご家族からも見慣れた職員のため安心感があり、信頼関係もある程度築いていると確信している。環境面では広い敷地で田園地帯に囲まれる静かな環境にあるため、ゆったりとした時間が流れている。庭の畑では季節の野菜や花を楽しみ採れた野菜を美味しく頂く等、敷地内のグラウンドでは、グラウンドゴルフ大会を年2回開催している。春には満開の桜の下で、職員・利用者様共に花見を楽しみ、季節の行事も盛りだくさんで年間を通して楽しめる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

法人体制の変更という過度期にあるホームではあるが、管理者を中心として風通しの良い関係が築かれ、馴染みの職員により穏やかな生活を支援している。感染症により途絶えていた“永の郷杯”グラウンド大会の開催やどんどやでは駐車場としての場所提供等地域の中で確固たる基盤が築かれている。運営推進会議の対面開催や家族会も再スタートさせ、家族へのアンケート調査等サービス向上に真摯な姿勢で取り組み、家族への定期的な情報発信は不安払拭として生かされている。季節毎に花見学に出かけたり、河川敷への散歩等入居者も地域の中での生活を楽しむ一方で、ホーム内での夏祭りでは浴衣を着てもらう等職員の創意工夫により楽しみのある日常としている。防災訓練、特に水害については避難経路を通り時間を計る等危機意識を高めて臨むホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりが地域の中で自立した幸せな日常生活を送る」ための文言が理念の中でうたわれており、毎朝唱和することで理念の共有を図りながら実践につなげている。	頃までの理念を継続し、唱和による意識付けとともに、職員体制に変更も無く全員が理念を理解してケアに当たっている。また、地域住民へのホームの存在が浸透していることはグラウンド場の開放や永の郷杯のグラウンドゴルフ大会を心待ちにされる住民の声に表われている。	法人体制の変更という変革期に有り、新年度に向けて新たなる気持ちでスタートされることと推察される。理念をもとにした話し合い等振り返りの機会を検討いただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区の一員として会報の閲覧、併設グラウンドの地域への開放、また当法人主催のグラウンドゴルフ大会の開催、地域のどんどやへの駐車場使用解放、地域運営推進会議メンバー等、地域に根ざしている。	地区の一員として区費の支払いや回覧板の受渡し、どんどや時には駐車場としての場所提供、永の郷杯グラウンド大会の開催(入居者の参加は難しい状況である)等地域の中で確固たる基盤が築かれている。これまで交流のある保育園から七夕飾りの提供やどんどやの見学、河川敷への散歩等入居者も徐々に地域へ出ることが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議のメンバーより地域の様々なケースを聞き皆で共有し、また当施設での様々なケースの対応や支援の方法をお話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中文書による会議が続いていたが今は対面会議を行っている。当施設で二カ月に一回発行する「永の郷たより」は毎回楽しみにされており施設の行事や地域との交流もわかるようになっている。	運営推進会議は地域包括支援センター、自治会長・民生委員、老人会長、校区グラウンドゴルフ協会、保育園長等とともに理事長をメンバーとして開催。地域交流行事・事業所内行事、事業主の説明、事故・ヒヤリハット報告等詳細な報告をもとにして、各参加委員から意見をもらう等双方向の会議が行われている。また、永の郷便りも情報発信として生かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議には毎回ささえりあ城南から参加され、窓口には当施設のパンフレット等を置かせて頂いている。また、二カ月に一度開催される城南町グループホーム連絡会にもささえりあ城南より毎回参加されている。	地域包括支援センターからは運営推進会議を通じて良好な関係が築かれ、ホームの状況発信や空き状況の発信により入居相談が上がっている。グループホーム連絡会に南区役所からの参加もあり新たな情報を得ている。また、区役所に介護認定申請に出向きながら情報交換を行ったり、介護事業指導課の訪問により感染予防講習を受ける等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所では「NO虐待・身体拘束」を掲げており、外部の研修会に参加したり、職員勉強会、委員会を開いている。	虐待防止・身体拘束適正化委員会により事例検討(報道等をもとに)や外部研修に参加し、ホーム内で復講を行い情報を共有している。転倒防止に離床センサーを使用する場合には家族に説明し同意を得るとしているが現在は使用していない。入居時に病院では4点柵であったとの情報を得て話し合いにより床にエアマットを置いて対応するとともに自由な生活を支援するとして下肢筋力を見極め2名体制で支えることとしている。『NO虐待・身体拘束』の掲示等行わないことを明確に示し、廊下にはカメラを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修では県のライブラリーの資料での勉強会やニュースなどで取り上げられた事件を朝礼や勉強会での議題にし何故そのようなことが起こったのか、どうしたら防げたのか等皆で考えるという事を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の中には直系の家族がおられない方や成年後見人がおられる方もいらっしゃるのでもいつも考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には何度もお会いし細かい説明や疑問点に納得いかれるまでお答えしている。また、希望されれば契約前に契約書・重要事項説明書をお渡ししお読みいただいている。契約にはかなりの時間を費やしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年二回の家族会でオープンに意見交換出来ている。家族間で話されたり職員ともお話しされている。また、ご家族の面会時や電話連絡時にはご家族の思いをお聞きし、年一回のご家族様アンケートでは忌憚ないご意見をお聞きしている。	コロナ前には年に6回開催していた家族会を年2回として意見交換や家族同士の交流の場としている。運営体制の説明や年間の事業計画の説明、また、年に1回のアンケートにより意見等を収集しホーム運営に反映させる体制としている。また、家族の訪問時に状態を説明するため全職員が対応できるよう情報を共有し、電話や毎月状況報告書により家族の不安軽減に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場内の勉強会では必ず今の職場の現状を皆に一言ずつ発言してもらうようにしている。いつでも意見の言える風通しの良い職場環境作りを意識している。	管理者は日々職員とのコミュニケーションを図り、毎月の勉強会での職員との意見交換や職員の気づき等には随時カンファレンスを開催する等管理者を中心として風通しの良い関係が築かれ、設備面や備品等の意見には管理者を通して上申する体制としている。組織体制は変っているが、職員体制に変わりも無く長い勤務歴に働きやすい環境にあることが表われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や責任者も週一回ペースで事業所に来て職場の雰囲気等の把握に力を入れている。また、職員との個人面談を行いコミュニケーションを図り個々の意見をくみ上げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会は月一回実施している。また、行政・社協・包括・ブロック会等の勉強会には積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	城南町グループホーム連絡会を通じて同業者と交流する機会がありネットワーク作りや勉強会、相互訪問の活動を行っている。地域密着型サービス連絡会にも参加し情報の収集等を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っていること、不安、要望等に耳を傾け安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前にかかりの時間をかけ情報を集めるように努めている。また、本人への面談は必ず実行している。さらに契約時にも改めて話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所されてから職員全員が緊張感をもって細かい観察に努め、ご家族にもご協力いただき本人が変わった所はないか観察していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には理念をしっかり理解してもらい実現に向けて努力するよう勉強会や研修にて話し合っている。ご本人とは家族同様の意識で生活出来るよう接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	開かれたホーム作りをめざしている。いつでも気軽にご家族には来ていただき、ご家族の質問や現在の状態報告は職員誰でも回答できるようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中以前のようにはいかないが、近親者の供養や墓参りには家族と出かけられている。また、本人の教え子との面会や職場の後輩等の面会もよく来られている。	家族や知人の教え子等の訪問の他、葬儀・法要や墓参等家族の協力も得ながら馴染みの関係が途切れない様支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係が構築できると席を隣同士にしたりレクや散歩を一緒にしたりと安心して生活できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族の相談に乗りフォローにつとめている。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何がしたいか、何が食べたいか等会話から拾えるよう心がけている。受診時に病院で家族と待ち合わせし情報交換を行ったりしている。	日頃の入居者との会話の中で、気が付いた事案をプランに組み入れる等意思疎通は難しくても昔の事等回想法を駆使して把握したり、家族から得た情報をプランニングに反映させている。職員は会話にはならなくても聞き取ろうと寄り添うのケアに努め、行動等から推察し本人の思いに応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの話や情報、本人とのコミュニケーションや行動の中から今の生活をより本人の意向に近づけられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の一日の生活動向の観察に主眼を置き、起床時のバイタルチェック、レク等の参加状況、生活リハ依頼の引き受け方などから現状把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は、職員よりその考えや思いを聞き取り皆様の状況を細かく把握し良い介護計画が出来ている。モニタリングは各職員からの記載をもとに計画に反映させている。	事業主変更に伴い、現状のプランを終了し、全てを新たに作成している。管理者・ケアマネジャー・職員とでカンファレンスを開催し生活面や身体面で話し合い、3ヶ月毎の評価により達成状況を見極めている。半年毎のモニタリングにより新たに作成するプランは日々の職員の気づきが反映され具体的なプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員の気づきや工夫などの情報は日々の介護支援経過表に記入し情報を共有実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	皆様にはいかに自由な空間の中で生活していただくかを職員間のテーマに取り組んでいる。既存のサービスに捉われないケアを実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関係強化などで構築した社会資源を上手く活用しながら皆様の豊かな暮らしを楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向を大切に、家族、職員と連携し通院支援または訪問診療を受けていただいている。訪問診療ではたまに通院支援もあり病院にて家族と一緒にすごされる。	現在、本人・家族の了承のもと2か所の医療機関による訪問診療と、数か月ごとに職員が受診を支援しその際は家族も同席されている。家族へは報告書の中で訪問診療の結果を知らせている。専門医への受診は家族やホームでも柔軟に対応している。歯科は希望者のみ月2回の訪問診療で必要な治療や口腔ケアを支援している。食後の歯磨きは現在、職員による支援が多くなっているようである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一敷地内の他事業所の看護師に迅速に看てもらったり、相談して適切に受診、看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族、病院関係者とは密に連絡を取り合っている。入院時の洗濯物を取りに行ったり届けに行き情報の手入等もやっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では入居時に終末期支援は行っておらず、医療が中心となると入院での対応となり、当施設にて出来る精一杯の支援をギリギリまで行っている事を説明している。	重度化・終末期支援についてはこれまで、ホームでの最終を切望された例もあるが、看取り支援は行わない事を入居時に伝え理解を得ている。医療が中心になられると退所されており、職員は出来得る日常の支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より講師を招きAEDの使用方法についてや応急処置、その後の手順等の勉強会を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を行い職員間で避難方法、道順の共有ができています。また、地域運営推進会議のメンバーより協力を構築している。	昼・夜を想定した火災訓練を実施している。入居者を起こす順番など実際は難しいことが多々あるなど職員意見があがっている。ホームは河川に近いことから水害に対しては、特に意識を持って研修会も2回行っている。日々の安全チェックは防火管理責任者を中心に実施されている。	災害対策として地域消防団との連携に努めていかれる事が期待される。災害備蓄は確保されており、今後はリストに沿って管理されることや策定されたBCPIについては、職員との共有を図られる事が期待される。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	玄関内に置かれた外部訪問者の記録用紙については、個別記入の用紙を用意しその都度回収しプライバシーの確保に努めている。また、接遇研修を職員で行いお一人おひとりの人格尊重に努めている。	接遇研修により入居者への言葉かけ、スピードなどコミュニケーションを大切にしながら対応する事を共有してる。呼称は苗字や同姓の場合は下の名など個々に応じて対応している。食事中こぼしがちな方には安易にエプロンの使用に頼らず、個々の状況に応じたタオルをあてるなど配慮している。写真掲載など個人情報の使用については、家族の了承を得ている。	居室や共用室などへ入室する際は、在室の有無に関わらずノックの徹底が望ましいと思われる。取組に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の困っている事、不安、要望等に耳を傾け安心して生活できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にする事と、共同生活を送ることは相反する事もあるが、業務優先にならないように日々取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面、食後の着替え、入浴後の爪切り、化粧、外出時の身だしなみ服選びを一緒に行うなど、その時々で支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングから見える畑にて採れた野菜を見ていただきその食材で料理を作ったりしている。夕食のデザートはほぼ毎日職員による手作りで見た目も良く好評。ご家族には献立表の他写真も一緒にお送りし何を召し上がっているか確認していただいている。	献立や調理は専任者を中心に行われている。食材は地域のスーパーなどに職員が出向き購入する他、ホームの畑で収穫した野菜(白菜・大根。ジャガイモなど)を活用しており、手作りの料理は入居者の楽しみとなり、食器拭きや干し柿づくりなど入居者の出番が用意されている。また、ワンプレート朝食や夕食の手作りデザートなど、入居者に喜んでもらえるよう工夫し、情報報告書により家族に発信している。職員は1名が味や量の確認を兼ねて検食しており、気付きや入居者の感想などを担当者へ伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事量を提供している。一日の摂取量の記録、水分量の確保には気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性は職員、ご家族とも理解しているので力を注いでいる。月二回の訪問歯科による口腔ケアを受けられる方もおられ、口の中の状態を把握するのに連携している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	把握した排泄パターンを職員間で共有し、日中はトイレ誘導、夜間はトイレやポータブルトイレを個々に使用して頂いている。また、尿量に合ったパットの使い分けを行い紙おむつで入所された方もリハビリパンツへの移行もスムーズに行っている。	把握した排泄パターンを共有し、時間を見て声掛け誘導が行われている。トイレは時間帯によって使用者が重なる事もあるので、十分配慮しながら対応している。便秘気味で排便が確認できない時には、腹部マッサージを行っている。職員は一人ひとりのサインを見逃さず支援しており、現在、自立された方もおられ、継続できるよう取り組んでいる。パットの使用も小・中・大のサイズを使い分け、オムツに頼らない支援は家族の負担軽減にもつながっている。夜間ポータブルトイレがある事で安心される方には、夜間のみ設置しどちらを使用されて良いことを伝えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認表で個々の排便パターンは把握できている。牛乳やヨーグルトを摂取して頂き散歩運動や腹部へのマッサージにて排便コントロール出来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月曜から土曜までを入浴支援日とし基本的に週三回入ってもらっている。また、汚染がある時はその都度入浴されている。菖蒲湯やゆず湯で楽しんで頂いている。	週2~3回、午前を中心に入浴支援が行われている。ホームの浴槽は一般的な家庭浴であることから、身体状況から湯船に浸かる事が出来ない入居者には、かけ湯などをしながらシャワー浴で対応している。着替えを面倒がられる方など、拒否がある場合には時間帯や翌日に変更するなど柔軟に対応している。季節の菖蒲や柚子湯(職員の差し入れもあり)は継続して取り組んでおり、入居者も楽しみにされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時間は決まっていない。一人ひとりのサイクルに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援はご利用者様の命に直結するものなので職員一人ひとり自覚し細心の注意を払い職員間で情報を交換、共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グランドでの散歩、季節の花見、畑での野菜の収穫等楽しみにされている。月のイベント、季節の行事等も利用者様出来る範囲でお手伝い願っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やベランダでの日光浴を継続している。花壇の花の植え替え時には利用者様と買いに出かけ選んで頂き植え替えて頂いている。	コロナ禍で外出を控える状況が続いていたため、入居者も以前参加していたグランドゴルフなどへの誘いには「もう行かんでよか〜！」など、意欲が薄くなっているようである。しかし、車や徒歩にて季節に応じた外出(菜の花・桜・紫陽花・彼岸場・コスモス・イチョウなど)を楽しんでいる。また、家族の協力で供養や墓参に外出された方もおられる。管理者は今後、新法人となったことで他の事業所との交流も外出の機会に繋げていきたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来られる方には外出時一緒に買い物することもある。その時はご自分でお金を払って頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと言われる方や年賀状を書かれる時は職員が付き添い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の温度管理や照明の明るさ度合いには気を配っている。散歩時に摘んだ草花を飾られたり、ご家族から送られた植木鉢に水をあげられる様支援している。	コロナ5類移行後もホーム内の換気や掃除、消毒と共に来訪者への感染対策が継続されている。ホーム内には入居者の書道作品の掲示や、散歩中地域の方の好意で摘んだ草花が飾られ、季節を感じる事が出来る。設備面の備品改修や購入は、管理者から運営者へ報告され、必要な対応がなされている。リビングは特に採光も良く、入居者は気の合った方と談笑するなど穏やかな時間を過ごされており、馴染みの職員による支援も居心地の良さに繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの大きさや配置、気の合うお友達を見極め席替えを行ったり工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物品や家族の思いが伝わる様な物の持ち込みも可能と伝えている。	ベッドとクロゼットが備わっており入居者は必要な物を持ち込まれており、全体的に馴染みの品などが置かれた部屋は少ないようである。荷物がある事で不安になる方にはクロゼット(押入れ)に収納するなど個別に検討している。身体状況に応じてベッドの下に、マットレスが準備された部屋も見られた。また、家族がカレンダーや写真を持ち込み掲示したり、テレビ等を持ち込まれ、訪問時に物品の確認をされる所もあり、居心地良く過ごす環境が整備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかる様大きく貼り紙をしたり、ご自分で判断できるよう努めている。		